

閉会中の調査報告

総務常任委員会

平成24年5月22日
出席者 委員全員
市民環境部 部長、次長
生活環境課 課長 他

調査事項

コミュニティバス運行事業

市の機構改革により、4月より事業の所管課が安心安全課から市民環境課へ移行。

① コミュニティバス運行対策費補助金（H24 予算）

経常収益	経常費用	欠損額（運行対策費補助金）
52,534,769	120,377,000	67,842,231

② 施設整備費補助金 3,665,000 円

バス停時刻表取り替え、「こにゃんバス」への外装改造費等

③ 車両購入補助金 15,000,000 円

ノンステップバス（座席11、立席24）

平成23年度の実績 輸送人員 317,689 人

運送収益	運送費用	収 支
54,540,435	119,699,000	-65,158,565

主な質疑

Q、日車単価の35,335円は平成14年から変わっていない。当時の軽油代は約83円で現在は約110円と価格が大きく上昇しているにもかかわらず、バス会社から何も言っていないのは日車単価が適正でなかったからではないか。

A、日車単価の精査は必要であると認識している。軽油代の上昇は、人件費を抑えることによって何とかやっているとのこと。運転手はJRのOBを雇用。

Q、実績報告書とは。

A、上半期、下半期と運行実績の報告をいただいている。内容は系統別に詳細にわたるもので、実際に補助金を出すときは実績報告書を基に交付決定を行う。

Q、もし、事故が発生した場合の責任は。

A、輸送契約書により、事故が生じたときの補償など責任は、滋賀バスが負うことになっている。

Q、コミュニティバスの統一したカラーリング（塗装）は。

A、市の補助によって購入したバスについては検討していきたい。

Q, 高齢者の運賃を割り引く「敬老パス」は。

A, 既に障がい者とその付添い人については割引制度がある。高齢者については、標準の運送約款で運行しているので、現在のところ困難。

Q, 湖南省 (44%)、甲賀市 (28%)、栗東市 (20%) の収益率の違いの要因は。

A, 湖南省は 42 系統だが、甲賀市は 92 系統。過疎地域を多く走ることによって収益率は厳しい (2.5 億円の赤字)。栗東市の場合、市街地の収益が見込めるところは民間の路線バスがカバーしており、それ以外の赤字路線を「くりちゃんバス」が運行している。

その他の意見

- ・「湖南省コミュニティバス運行を考える市民会議」に総務常任委員長が出席するが、その場でルート変更案などを議題で出されても対応できない。事前に議会で話し合える体制づくりが必要。
- ・これまで市の補助でバスを 5 台購入しているにもかかわらず、日車単価が長い間、そのまま変わらないのはおかしい。
- ・市民の利便性の確保は大事であるが、事業の縮小も視野に入れるべき。

*日車単価

平成 14 年 10 月、JRバスが全面廃止された際、県下バス 3 社 (帝産湖南交通、近江鉄道、滋賀バス) により競争入札で示されたバス 1 台 1 日当たりにかかる費用